

SGホールディングスグループによる、脱炭素。
詳しくは、特設サイトをご覧ください。



<https://www.sg-hldgs.co.jp/sdgs>



SGホールディングス株式会社

〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町68番地 TEL:075-671-8600

発行日：2023年10月

〈出典〉

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)『1.5°C特別報告書』『第6次評価報告書』、環境省『IPCC 第5次評価報告書の概要-WG1(自然科学的根拠)-』

※作中のCO₂排出量削減目標は、2021年10月に閣議決定された2030年の電源構成(非化石59%:再エネ36~38%、原子力20~22%、水素・アンモニア1%)が実現することを前提条件としています。

上記に変更があった場合、グループ削減目標を再検討する必要があります。

※作中のCO₂排出量削減目標は国内グループ会社をその対象範囲とし、海外グループ会社は順次対応を検討します。

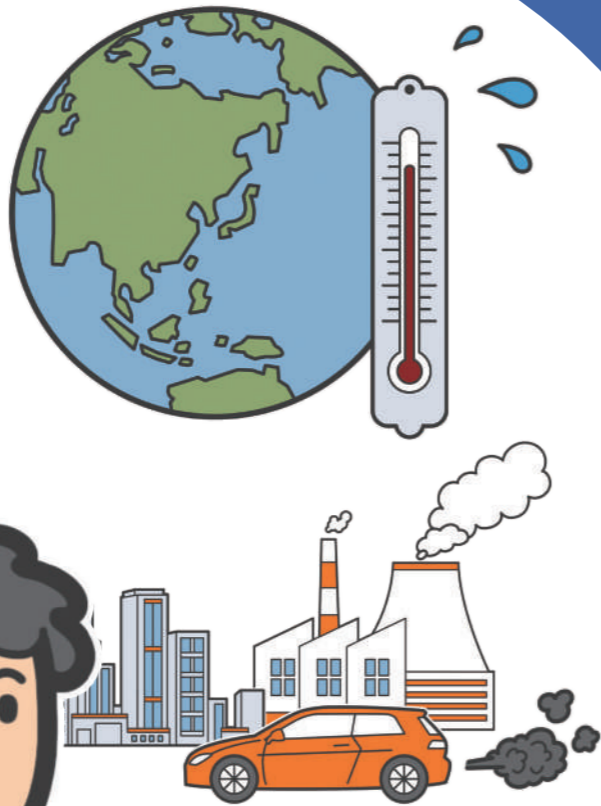
SGホールディングスグループによる、
脱炭素への取り組みを解説します。

脱炭素!



SGホールディングスグループ

こちらは、ショウさん。
授業で、人間の活動によって、
地球の平均気温が上昇している、
と知りました。



どうすれば
止められるのでしょうか？

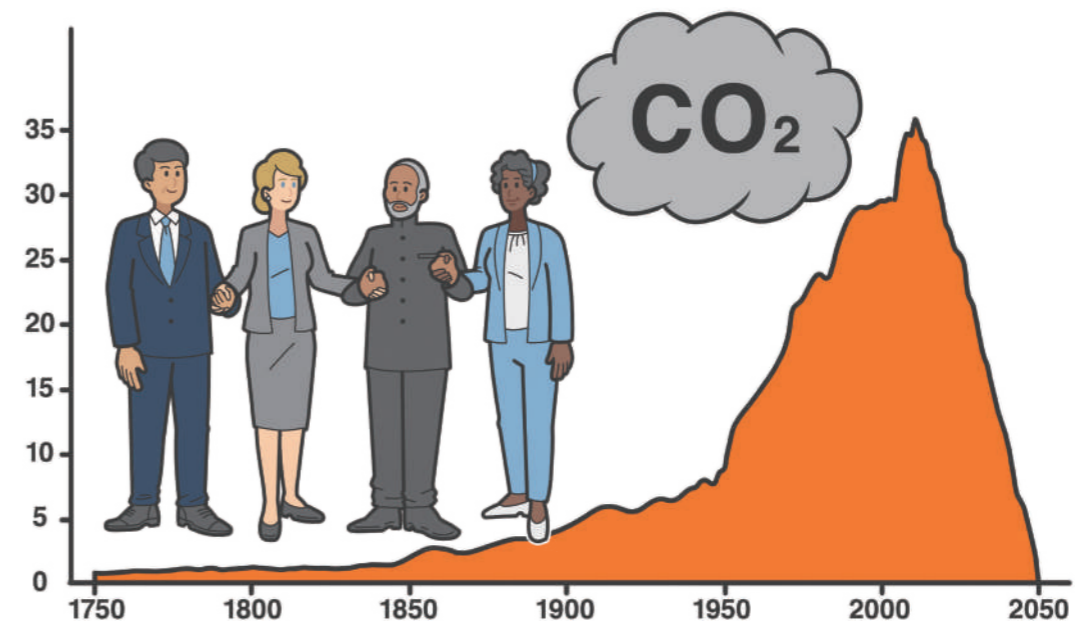


このままでは、
自然災害が増えるなどの
問題が起きると聞き、心配に。

脱炭素は、
温室効果ガスの排出量を
実質ゼロにすること。



先生が教えてくれます。
鍵となる取り組みが
脱炭素。

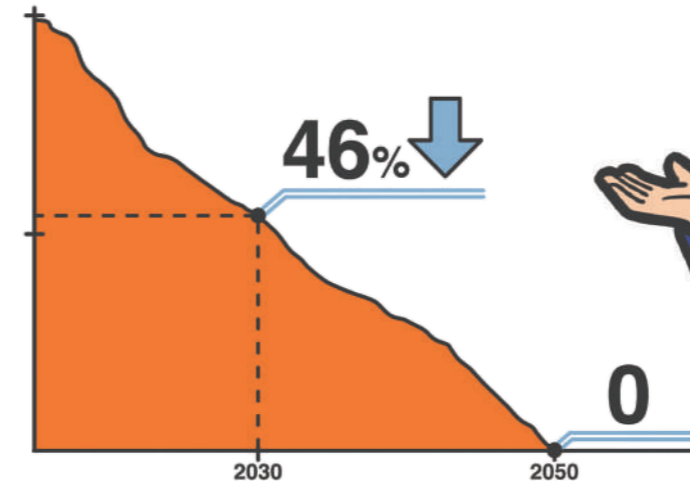


2050年の実質ゼロに向け、
脱炭素社会への移行を
世界各国や企業が
進めています。

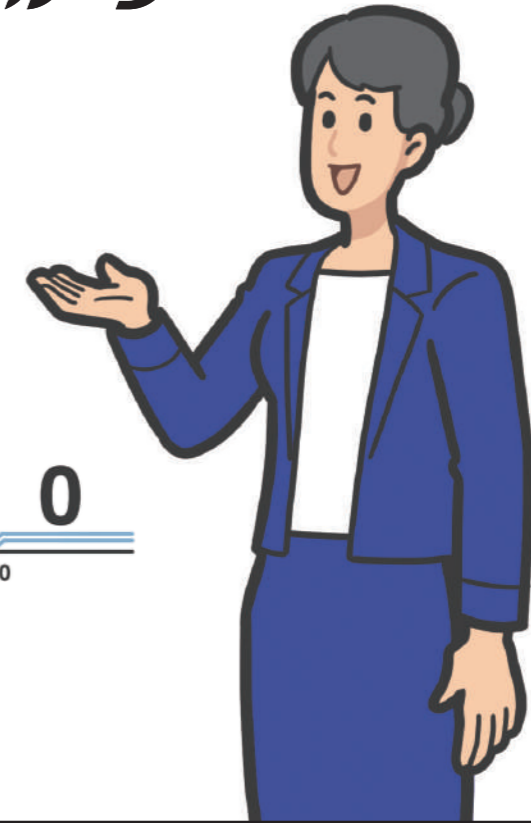
ショウさんは帰宅後、
母親のミカさんが勤める
物流の会社では
どんな脱炭素の取り組みをしているか、
聞いてみました。



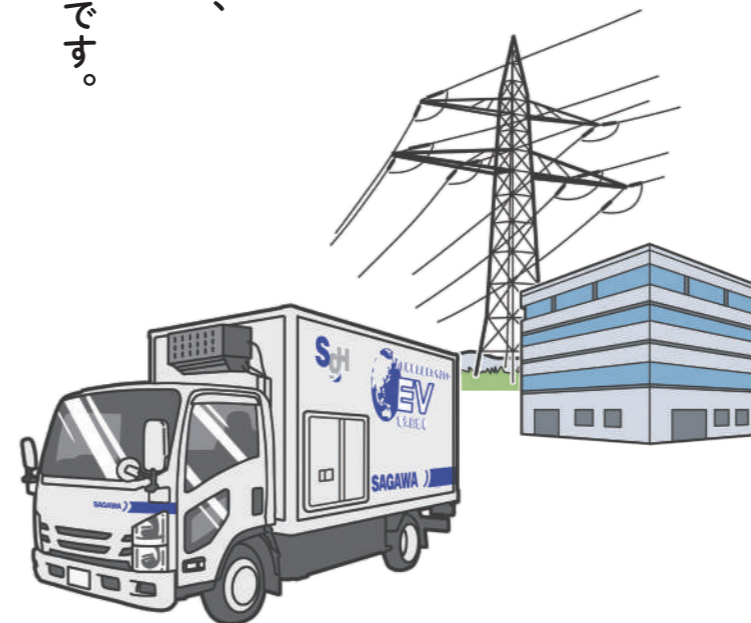
SGホールディングスグループ



SGホールディングスの
ミカさんが教えてくれます。
2050年までに、二酸化炭素の排出量を
実質ゼロにすることを目指しています。

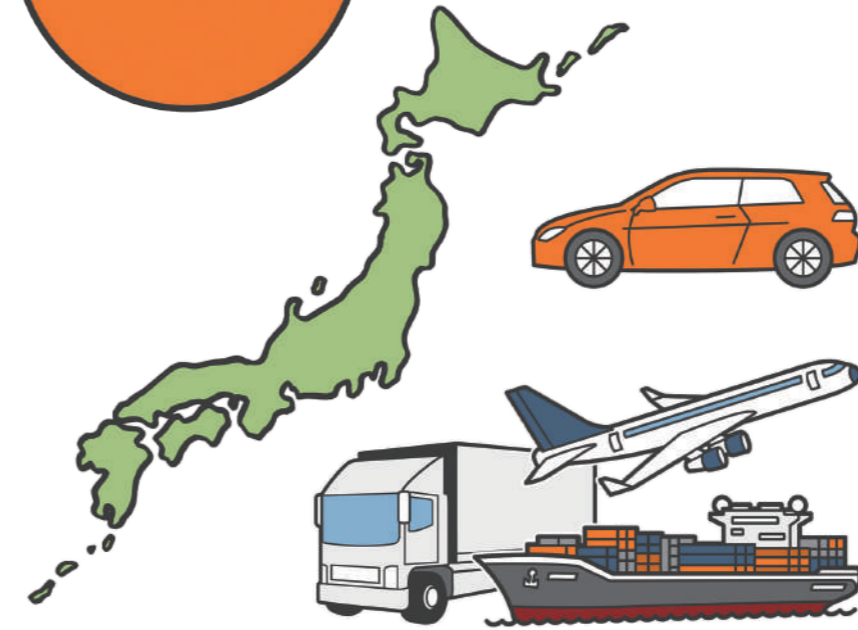
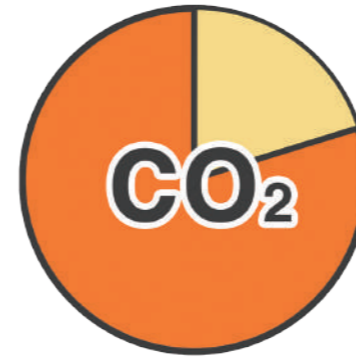


これらは、
自社の活動による
排出が対象で、
具体的には、
車両で使う燃料と、
施設で使う
電力による排出分です。



ショウさんは感心。

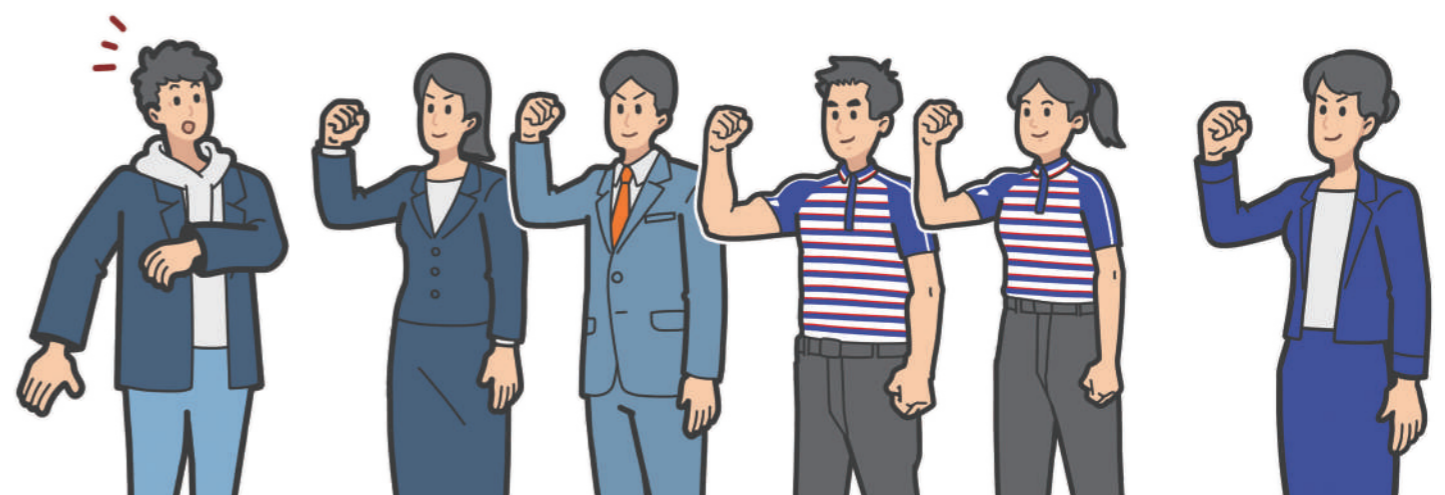
でも、物流企業は、
自動車など排気ガスを伴う乗り物を
多く使うイメージがあり、
排出を減らすのは難しいのでは？



たしかに、
日本の
二酸化炭素排出量のうち、
自家用車を含む
運輸部門が
約2割を占めています。



でも、だからこそ、
気候変動の進行を
止めるため、
私たちが担う役割は
大きいのです。



取り組みの1つ目は環境対応車の導入。

二酸化炭素などの排出が少ない、
ハイブリッド車や、電気自動車、
天然ガス自動車などの
活用を進めています。



Hybrid



EV



CNG

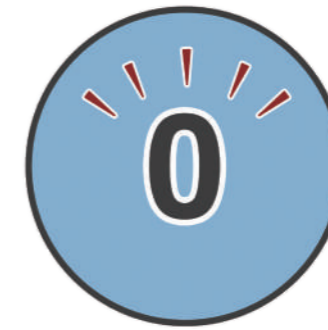
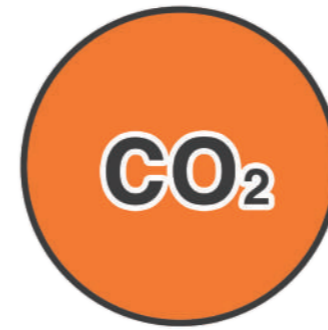


化石燃料

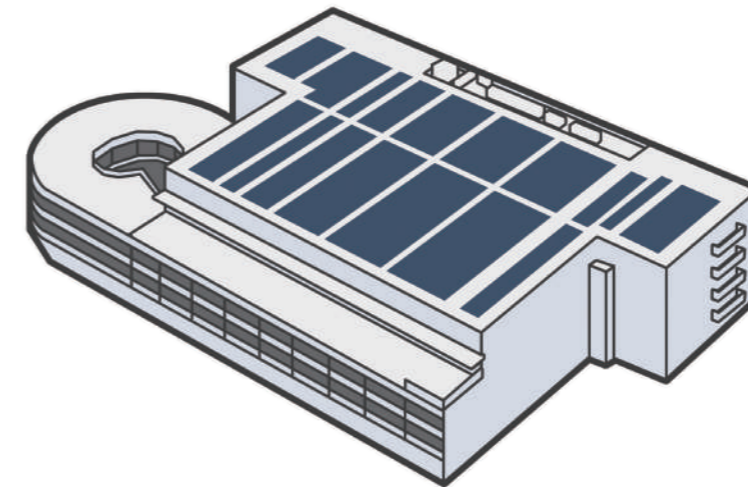


CO₂排出を伴わないカーボンフリー電力

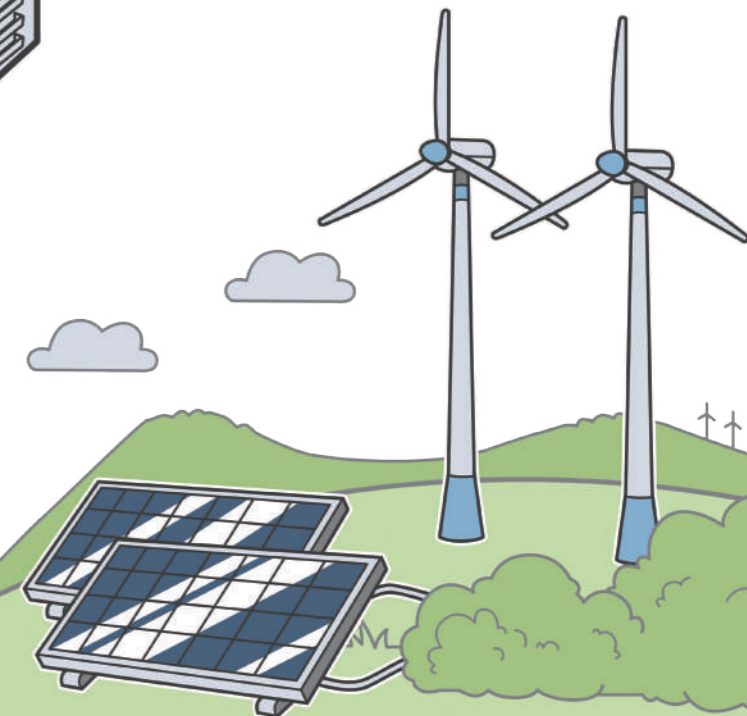
2つ目は事業所での
カーボンフリー電力。



火力発電などの、
石炭・石油といった
化石燃料を使った
電力ではなく、
再生可能エネルギー
由来の電力を
使う取り組みです。



なかには、太陽光発電や、
蓄電池などを活用し、
化石燃料由来の
電力を一切使わない、
「CO₂排出ゼロ化」
を達成した事業所も。

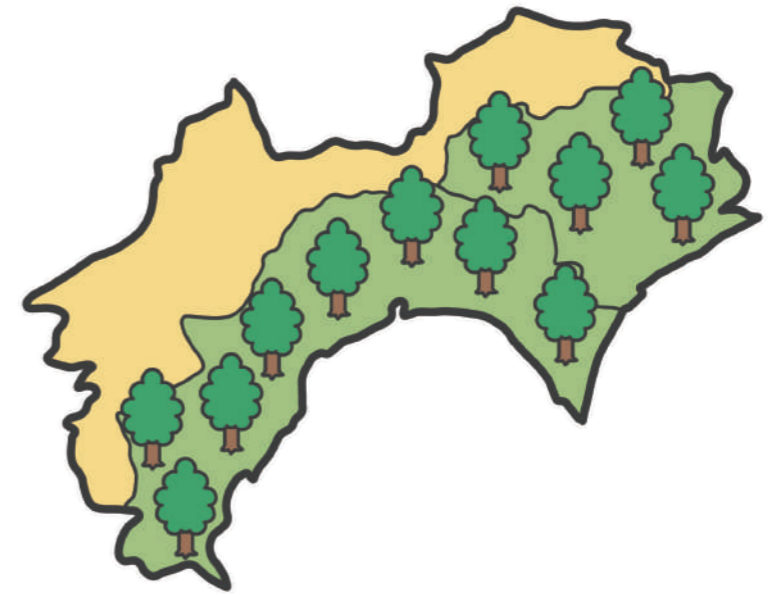


3つ目は
大気中の二酸化炭素を吸収する
森林の保全、拡充。

植林、生育、伐採、活用という
サイクルが機能することで、
より多くの二酸化炭素を吸収したり、
土壌や水源、生態系などの
環境が健康に保たれます。



私たちは、
こうした森林サイクルを
維持するため、



高知・徳島両県に
森林を保有し、
植林、間伐などの
保全活動、木材活用などに
取り組んでいます。



SGホールディングスグループの
脱炭素の取り組みについて、
理解したシヨウウさん。



家庭でもできることはないか、
考えていこうと思いました。